

## 入選

### 感謝の手紙

熊本県 高森中央小学校

六年 山口 なずな

私の母の口癖は、「感謝の気持ちは言葉で伝えなさい」です。

実際、親族や友だちにお礼状などをよく送ります。コロナで学校に行けないとき、私は誰かに感謝の気持ちを伝えようと思って、私の好きなジュースを作っている会社にお手紙を書きました。

手紙には、コロナでジュース工場がとまっていないかということや、会社の人たちが元気なのかなど心配していたことを書きました。そして最後には、私がどれだけそのジュースが好きなのかについても、一生懸命書きました。

手紙が無事届くか心配しながら、ポストに入れ、手紙を出したことも忘れてしまったころ、私宛の手紙が一通届きました。友だちからかなと思い送り主を見てみると私が、少し前に送った、ジュース工場の営業企画部のHさんからでした。

送り主を見た瞬間、とても驚いて母のところまで走って行きました。そして、母に伝えると私より驚いて、早く読んでみようと二人でいっしょに開けました。

手紙には、「ジュース工場は、今もきちんと動いているから安心してください」と書かれていました。私が一番驚いた内容は、私の書いた手紙が、全国にある支店の皆さんにメールで回覧したと書かれていたことです。全国の人たちもとても喜んでくれて、元気が出たと言われたそうです。

またHさんは、私が住んでいる高森ともご縁があり、高森の思い出も書かれていて、身近に感じられました。手紙を送ったことで、たくさんの人と関わりを持つことができました。手紙といっしょに、特別なプレゼントも入っていて、私の宝物になっています。

その後も、お手紙のやりとりは続いています。私のことを、いつも覚えてくれていて、やさしいお手紙をくださる営業企画部のHさんにとっても感謝しています。つい最近も、お手紙をいただきました。「ちょうど一年たったね」と、私も忘れていたことを覚えてくれていて、とてもうれしかったです。いただいたお手紙を読むだけで、心が温かくなり、やさしい気持ちになれます。

私のささいな思いつきで書いた手紙でしたが、とても喜んでくださり、とても嬉しかったです。コロナで学校も休みになったし、いろいろな行事も中止や延期、小規模になったり、6年生の私にとってはつらいこともたくさんありました。

簡単には人と会うことができなくなってしまった中だったけれど、お手紙を通じて、思いをしっかりと伝えられることがわかりました。

言葉は人を傷つけることも、喜ばせることもできるので、私は人を喜ばせるために言葉を使いたいなと思いました。

これからも、言葉を大切に使っていきたいです。